

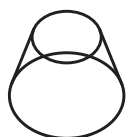
Secrets of the Kimono : The Advent of Yuzen Dyeing
— Focusing on the Collection of CHISO, Kyoto

きもののヒミツ 友禅のうまれるところ

— 京都千總コレクションを中心に

2025年10月25日(土) ~ 12月21日(日)

《帷子納戸麻地春秋景に御所車殿舎模様》
19世紀初期 千總ホールディングス蔵



静岡市美術館
SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
tel. 054-273-1515 (代表) www.shizubi.jp

本展について

日本の伝統的な衣装・きもの。反物を直線縫いで仕立てるため強い平面性をもちますが、施された多彩な意匠は衣服として身にまとうことで立体物となります。この平面と立体を行き来するところに、立体裁断で制作される洋服とは異なるおもしろさがあります。一方で、制作の現場では、下図や図案から人の身体を彩るきものを実現するために、多くの試行錯誤がなされてきました。

本展では友禅の老舗・千總^{ちそう}のコレクションを中心に、近世のきものや当時の流行を反映した雛形本、円山応挙と近代の京都画壇の絵画、工芸品、そして近現代の人間国宝のきもの作品等を通じて、きもののデザインが生み出された背景や制作者の創意に迫り、これまでにない視点から「きもののヒミツ」を紹介します。

■会期:2025年10月25日(土)～12月21日(日)

前期:10月25日(土)～11月24日(月・休) 後期:11月26日(水)～12月21日(日)

■休館日:毎週月曜日、11月4日(火)、11月25日(火)

※ただし11月3日(月・祝)、11月24日(月・休)は開館

■開館時間:10:00～19:00(入場は閉館の30分前まで)

■観覧料:一般1,400円、大高生・70歳以上1,000円、中学生以下無料

*前売および当日に限り20名以上の団体料金は200円引き

*障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

■主催:静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、読売新聞社、Daiichi-TV

企画協力:京都国立近代美術館

特別協力:株式会社千總ホールディングス、一般社団法人千總文化研究所

協賛:京セラドキュメントソリューションズ

展覧会情報

みどころ

1、江戸時代の きものがずらり！

織り、染め、刺繍…さまざまな技法と多種多彩な意匠をご紹介します

2、近代に活躍した京都画壇の画家が染織品の下絵を！？

画家が下絵を手がけたことで、友禅染のデザインにも変革がもたらされました

3、友禅のうまれるところ

平面に描かれた図案から身にまとうきものになっても美しく…

友禅の制作者の視点から“きものの美”が生まれるヒミツに迫ります

第1章：平面と立体のあいだで きものと雛形本

近世のきものの優品やこの時期に数多く出版された雛形本などの資料を通じて平面と立体を行き来するきものの造形的特徴と多様な意匠をご紹介します。

夏に着る麻のきもの
格式高く豪華なデザインに注目



《帷子納戸麻地春秋景に御所車殿舎模様》19世紀初期 千總ホールディングス蔵

宮中の女性に好まれた
尾長鳥の文様



《打掛白紬子地藤菱尾長鳥模様》18世紀後期—19世紀初期 千總ホールディングス蔵

18世紀に流行した
風景画を描いた小袖



《打掛白紬子地近江八景模様》19世紀初期 千總ホールディングス蔵



近江八景 唐崎の松

流行をいち早く！
小袖模様の雛形(カタログ)



『正徳ひな形』1713年 千總ホールディングス蔵

葦や鷺のぼかし(グラデーション)は
友禅ならではの美しさ



《小袖納戸紬子地芦に鷺流水蛇籠模様》18世紀後期—19世紀初期 千總ホールディングス蔵

第2章：京都画壇の日本画と下図、染織図案

幕末頃になると形式化していたきものの意匠は、近代に入り京都画壇の画家たちが下絵を担うようになることで刷新されていきました。



幸野楳嶺、竹内栖鳳、岸派…
近代京都画壇に影響を
与えた応挙の写生画

令和7年度重要文化財に指定されることが決定

西洋絵画を思わせる空間表現に注目
明治9年フィラデルフィア万博に出品された岸竹堂の代表作



上：重要文化財 円山応挙《写生図巻(乙巻)》(部分)1770-72年【前期】
下：重要文化財 岸竹堂《大津唐崎図》1875年【後期】
いずれも千總ホールディングス蔵

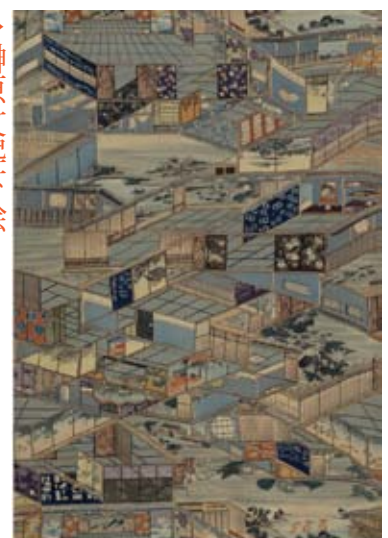
京都画壇が下絵を手掛けた友禅の数々を紹介



◀ 幸野楳嶺下絵



▶ 梅村景山下絵



▶ 榎原文翠下絵

幸野楳嶺下絵友禅染製御簾に大菊 1890年【前期】 千總ホールディングス蔵

梅村景山下絵友禅染製竜田吉野模様 1880年【後期】 千總ホールディングス蔵

榎原文翠下絵友禅染製座敷くし 1881年【前期】 千總ホールディングス蔵



第3章: 図案から染織品へ 描かれた図案と染められた図案

図案を実際のきものに仕上げる際、制作現場では様々な試行錯誤がなされ、明治中期以降、染織図案はますます多様化します。ここではその変遷の過程や明治期を中心とした流行の友禅模様や図案を紹介します。

図案から友禅染、そして“きもの”へ

神坂雪佳による
原画

神坂雪佳原画の
友禅染裂

神坂雪佳原画の友禅を
もとに作成したきもの

左…神坂雪佳草花図《20世紀初頭》
中央…神坂雪佳原画《友禅染裂琳派白化》1935年
右…神坂雪佳原画《きものシルエット琳派白化ブルー》2015年
いずれも千總ホールディングス蔵



第4章: 平面と立体のあいだで 京都の友禅の人間国宝

京都ではこれまでに「友禅」の技法で5名の人間国宝が認定されています。彼らの作品を通じて、あらためてきものが持つ平面性と立体性について考えます。



森口華弘《友禅訪問着「彩華」》1985年 京都国立近代美術館蔵【後期】



三代田畑喜八《一越縮緬地鳳凰桐文振袖》1954年 京都国立近代美術館蔵【前期】

以下の画像以外をご希望の場合はご一報ください。 ※クレジットに「※」があるものは会期中展示替えがあります



1、《帷子 納戸麻地春秋景に御所車殿舎模様》
19世紀初期 千總ホールディングス蔵



2、神坂雪佳《草花図》20世紀初頭
千總ホールディングス蔵



3、神坂雪佳 原画《友禅染裂
琳派百花》1935年
千總ホールディングス蔵



4、重要文化財 岸竹堂《大津唐崎図》1875年 千總ホールディングス蔵【後期】 ※



5、森口華弘《友禅訪問着「彩華」》1985年
京都国立近代美術館蔵【後期】 ※



6、重要文化財
円山応挙《写生図巻（乙巻）》（部分）
1770-72年 千總ホールディングス蔵
【前期】 ※



7、幸野煤嶺 下絵
《友禅染裂 御簾に大菊》1890年
【前期】 ※